

このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

利根川

文 蛭田光城

絵 野上和彦

「成男、利根の土手が、一日一日と緑を増しているよ。」

「この辺には、おじいさんと利根川へ行きました。土手へ上がると、短い枯れ草の間から、青い芽がもえ出ています。」

「これが『よもぎ』だよ。三月の餅へ入れるので『餅草』ともいうんだ。」

おじいさんの話は続きます。

「この辺には葦がいつばい茂っていて『よしきり』という小鳥が、あちこちに巣をかけていたものだよ。このあたりに住んでいる友達は、初夏になると、よく『よしきり』の卵やひなを学校へ持ってきたよ。珍しいのでみんながほしがったなア。」

土手の最上段へ登ってみました。

「あの川の中に、突き出ているのは何なの。」

「あれは沈礁さ。両側に杭を打ち、竹で柵を作つて、その間へ石を積み重ねてあるんだ。」

「なぜ、作るの。」

「川の流れをみてごらん。流れがこちらの土手近くまできているだろう。だから土手を守るためのさ。沈礁を作つておくと、川上から流れてきた砂が、せき止められる。そして沈礁の川上側は浅くなつて、流れがゆるやかになる。流れる水で土手が削られる心配がなくなるわけさ。」

おじいさんは一息ついて話を続けました。

「そんなわけで沈礁の上手は浅くなつているんだ。おじいさんが子供のころは、友達とさそい合つて、よく入つたものだ。胸まで水につかつて、下を見ると、すきとおつてつま先が見えるんだ。足に当たつた水で、足の下の砂が少しずつ削られて、だんだん深くはまって行くんだ。友達と手を組んで立っていて、深くなつてきたなと思うと、一、二の三で上がつて、別の所で遊んだものだったよ。」

編集後記

2月の恒例行事「梅まつり」。今年は2月10日～3月9日に開催されますが、30年前の広報では「2月19日～3月21日」とあり、梅の開花が10日近く早くなつていくことがわかります。日常生活ではなかなか実感できませんが、昔の花見の記録などを見るといつの間にか地球温暖化が進んできていることが分かるはず。懐かしい写真を見ながら家族で話し合ってみてはいかがですか。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。



平成20年2月15日号 No.1117 成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>